



ほけんだより 6月号

2023年6月1日
いちご保育園
看護師 佐々木

あじさいがきれいに咲く季節となりました。この時期は、急に暑くなる日があったり、肌寒い日があったりと、体調を崩しがちです。バランスの良い食事や睡眠をしっかりと、元気にすごしていきましょう。

6月の保健行事予定

12日(月)身体測定

13日(火)9:30~ 歯科健診

おうちで朝の歯みがきをしてきて下さい。

※当日お休みのお子さんは、後日個別に「よりこデンタルクリニック」に受診して頂きます。

14日(水)乳児健診(0歳)

全園児健康診断(4歳、5歳)

※他のクラスのお子さんにも気になることや園医に相談がある場合には、当日一緒に診てもらえますので前日までにお知らせください。

プール活動が7月から始まります！

楽しく安全にプール活動を行うため、始まる前に子どもたちの体にケガや病気がないか確認しています。皮膚に化膿している傷がある場合や絆創膏を貼っている場合、また中耳炎や蓄膿症、ものもらいなどの目の病気時はプールに入れません。水いぼについてもご相談下さい。上記のような症状があるお子様は、プール遊びが開始される前に受診、治療をしてください。よろしく願い致します

6月4日は、むし歯予防デー



13日に行われる歯科健診の前に幼児クラスで歯に関する紙芝居を読みたいと思います。

お土産に、全クラスに(株)ロッテさんから頂いた、キシリトールタブレットをお渡しします。推奨は2歳頃からとなっています。食べられないお子さんは、保護者の方が召し上がってください。

虫歯を予防するためには、やはり歯みがきが一番大切です。お父さまが歯みがきをした後は仕上げみがきを行い、虫歯を予防しましょう。



大変危険です。

子どもの誤飲!!

子どもは「はいはい」や「伝い歩き」をするようになると、手に触れたものを何でも口に入れるようになります。公益財団法人 日本中毒情報センターの中毒110番への問い合わせは5歳以下の小児、特に**生後6か月～2歳未満**の乳幼児の誤飲事故が大部分を占めています。下の絵は誤飲事故の多いものです。このようなものがお子さんの手の届くところに放置されていませんか？



危険がいっぱい!

子どもの誤飲事故が起こったら 応急手当の基礎知識

意識がない、けいれんを起こしているなど、すでに重い症状がある時は、直ちに救急車を呼びます。意識があり、呼吸・脈拍に異常がない場合は、何をどの位の量を誤飲して、どの位の時間が経っているのかを確認し、症状がある時は、すぐに医療機関を受診します。家庭で無理に吐かせると、吐いたものが気管に入ってしまうことがあり危険です。下表のように牛乳や水を飲ませて溜めるとよいものもありますが、飲ませるとよくないものもあります。

誤飲した物 (有害なものには斜線をいれます)	牛乳を飲ませる	水を飲ませる	理由
石油製品 (付着、マニキュア、洗剤、漂白剤、殺菌剤など)	×	×	吐かせたり、牛乳または水を飲ませることで吐きやすくなる、吐物が気管に入りやすくなり、入ると肺炎を起こす。
容器に「酸性」または「アルカリ性」と表示されている薬品 (石鹼、漂白剤、トイレハイパー/洗剤類など)	○	○	誤飲時のどや食道に「やけど」を起こしており、吐かせると薬剤が再びのどや食道を通るため「やけど」がひどくなる。 牛乳または水は薬物の「やけど」を起こす作用を和らげる。
防虫剤 (しょうゆ、ナフタレン、パラジクロロベンゼン)	×	—	しょうゆ(樟脳)は吐かせると、けいれんを起こしやすくなる。 防虫剤は牛乳に含まれる脂肪に溶けて体内に吸収されやすくなる。
たばこ(煙、吸殻、加熱式含む)	×	×	たばこの有害成分「ニコチン」が体内に吸収されやすくなる。
界面活性剤を含む洗剤 (洗剤、シャンプー、石けんなど)	○	○	牛乳または水はのどや食道、胃に対する界面活性剤の刺激を和らげる。
石灰乾燥剤、除菌剤など	○	○	牛乳または水は薬物の「やけど」を起こす作用あるは刺激を和らげる。

×:行ってもいけない、○:行ったほうが良い、—:どちらでもない

中毒110番 一般専用電話 判断に迷ったら問い合わせを!

*あわてずに誤飲したものを手に持って、お子さんの年齢や体型、誤飲したものの正確な名称、飲んだ量など事故の状況をお伝えください。

大阪:072-727-2499 つくば:029-852-9999

(365日24時間対応) (365日9~21時対応)

化学物質(たばこ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによる中毒事故が突発的に起こり、どう対処したらよいかわからない時にご相談ください。応急手当や受診の必要性を薬剤師、獣医師がアドバイスします。ただし、異物誤飲(プラスチック、石、ビー玉など)や食中毒、慢性の中毒(アルコール中毒、シンナー中毒など)や医薬品の常用量での副作用についての相談には応じていません。



ストップ!! 子どもの誤飲事故

▼大人がちよっと目を離した際に起こります!!

誤飲事故は、台所仕事をす、電話にでる、洗濯物を干すなど、子どもからほんのちよっと目を離した際に、あるいは大人が見ている目の前でも起こります。詳しくは、日本中毒情報センターwebサイト <https://www.j-poison-ic.jp> の「一般の皆さま」をご覧ください。

▼大切なことは、事故の防止です。

子どもの誤飲事故は、子どものまわりにいる大人が注意することで防げます。注意するものは、子どもの年齢に応じて変わります。日頃から危険なものを子どもの手の届かない高い所か、鍵のかかる所に保管する心がけが必要です。

●年齢に応じて子どもの目線も変わります。

年齢の目安	注意するもの (後始末や保管管理)
6か月~12か月	床や畳など、低い位置のものに注意 たばこや吸殻、床の上のホウ酸団子や液体乾草
1歳~2歳	テーブルの高さにあるものにも注意 (台に登ることがある) リモコン・玩具・キッチンタイマーの電池 洗面台や流しの下に洗剤、ポリタンクの灯油ポンプ 防虫剤、籠台の化粧品、シャボン玉流などの玩具
3歳~5歳	高い場所にも注意 (行動範囲がより広くなる) 床の上の鼠息箱、引き出しの中のかすり 冷蔵庫の中のシロップ瓶、流しの漂白剤のコップ



日本中毒情報センター
webサイト

